Pray for Japan

パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告書 2012

・復興支援活動（2012.4.1 ～ 2013.3.31） ・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 1
・東京都内における被災者支援活動を推進します。・・・・・・・・・・・・ p. 3
・被災地への支援活動を引き続き推進します。・・・・・・・・・・・・・・・ p. 4
・福島支援活動を推進します。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 5
・復興支援及び災害対策に関するセミナー等を開催します。・・・・ p. 6
・福島支援カンパ中間報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 7
・東日本大震災から2年…私たちは忘れない！・・・・・・・・・・・・・・・ p. 9

生活協同組合 パルシステム東京

Pray for Japan

復興支援活動はホームページで随時報告
http://www.palsystem-tokyo.coop/

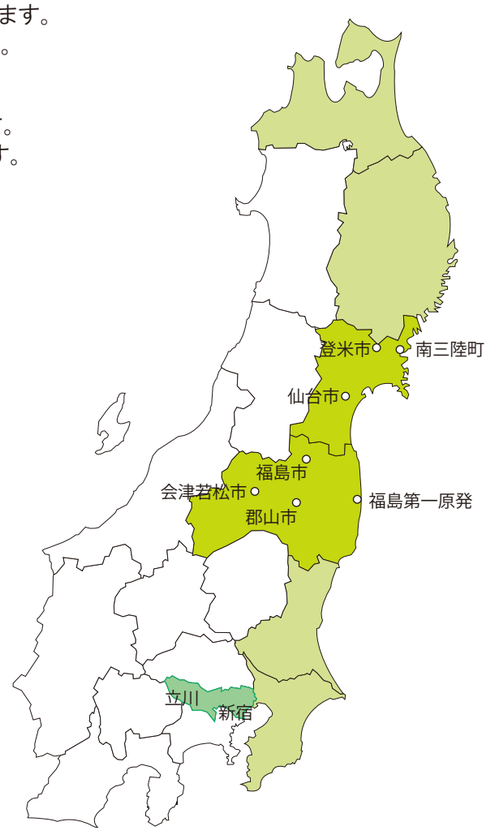
パルシステム東京「2012年度復興支援方針」

1 東京都内における被災者支援活動を推進します。
- 東京に避難している被災者の、 情報交換・交流の場としてコミュニティカフェを開催します。
- 自治会・社会福祉協議会などの地域団体や、 復興支援団体・東京都生協連などと連携した取り組みを展開します。

2 被災地への支援活動を引き続き推進します。
- 東京災害ボランティアネットワークが取り組んでいる南三陸町支援活動プログラムに継続して参加し、被災者支援に取り組みます。
- パルシステム連合会・他団体と連携した支援活動を行ないます。

3 福島支援活動を推進します。
- パルシステム福島と連携し福島の子どもたちとの交流企画を開催します。
- 放射能被害による被災者支援活動を他団体と連携してすすめます。

4 復興支援及び災害対策に関するセミナー等を開催します。
- 被災者の体験談や NGO・NPO を招いたセミナーを企画開催します。
- 災害から組合員の安全を守るための学習会やセミナーを開催します。



パルシステム東京は、2013 年度も引き続き復興支援活動を推進してまいります。

3.11 東日本大震災以降に起こった、人災とも言える東京電力福島第一原発事故から、丸２年以上経過した現在も、原発事故の収束はおろか、未だに除染も進んでいません。また、この原発事故で住み慣れた故郷を追われ、不自由な避難生活を余儀なくされている方々が大勢いらっしゃいます。

パルシステム東京は「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」の理念のもと、事業と活動に取り組んでいます。私たちの理念と原子力利用の推進は決して共存できません。一刻も早く原発を廃止して、安全な社会を取り戻さなければなりません。

また、協同の力で、復興支援活動を継続していくことは、パルシステム東京の協同組合としての役割であり、責任でもあります。被災地と被災者に思いを寄せ続け、パルシステム東京は、これからも組合員、役職員が力をあわせて、復興支援活動に取り組んでまいります。

2013 年５月
パルシステム東京専務理事　佐藤功一

主な復興支援活動（2012.4.1 ～ 2013.3.31）

４月 30 日	都内避難者へのアンケート ▷ p. 3
４月 27 日～ 30 日	「第１期宮城県南三陸町被災者支援ボランティア」に役職員４人を派遣 ▷ p. 4
５月 14 日～ 18 日	「復興ぞうきん」を東村山センターで販売 ▷ p. 4
５月 12 日	南三陸町被災者支援組合員ボランティアまとめ報告会を開催、組合員 21 人、役職員２人が参加 ▷ p. 4
５月 14 日～ 15 日	福島で活動している団体へ役職員４人が訪問、意見交換や情報収集 ▷ p. 5
６月８日～ 11 日	「第２期宮城県南三陸町被災者支援ボランティア」に組合員３人、職員２人を派遣 ▷ p. 4
６月９日	「被災者支援組合員ボランティア合同交流会」を開催、組合員 16 人、役職員・関係者７人が参加 ▷ p. 4
７月９日～ 13 日	「編んだもんだら（アクリルたわし）」を足立センターで販売 ▷ p. 4
７月 20 日～ 23 日	「第３期宮城県南三陸町被災者支援ボランティア」に組合員３人、職員２人を派遣 ▷ p. 4
７月 23 日～ 25 日	「夏休み！サマーランドで思い切り遊ぼう！！つながろう！パルシステム福島＆東京子ども交流企画」を開催、パルシステム福島の組合員親子 15 家族 43 人を東京へ招待、東京からも組合員ボランティア５家族 13 人が参加 ▷ p. 5
７月 26 日	情報交流会「福島を考える　再生に　今　私たちに求められていること」を開催、役職員 20 人が参加 ▷ p. 6
８月 18 日	「パル・パラソルカフェ in 大山団地夏祭り」を開催、組合員ボランティア 22 人が参加、招待客を含む４家族と３グループの計 20 人が来場 ▷ p. 3
８月 24 日	「被災地の児童・生徒のための『思い出作り＝心の支援活動』への義捐金」へ 10 万円を組織カンパ ▷ p. 4
８月 31 日～９月３日	「第４期宮城県南三陸町被災者支援ボランティア」に組合員３人、職員２人を派遣 ▷ p. 4
９月３日	学習・講演会「瓦礫問題を考える！いのちを守る森の防潮堤とは？」「復興支援の現状と課題」を開催、組合員 20 人を含む 61 人が参加 ▷ p. 6
９月６日～ 20 日	日本生活協同組合連合会の「安心して住める『福島』を取り戻すための活動」へ協力、署名 1,660 筆、45 万円を組織カンパ ▷ p. 4
９月 17 日～ 21 日	「編んだもんだら（アクリルたわし）」を江戸川センター、江東センターで販売 ▷ p. 4
10 月４日	東京災害ボランティアネットワークへ 45 万円を組織カンパ ▷ p. 4
10 月８日～ 26 日	「福島支援カンパ」を実施、延べ 11,344 人の組合員から総額 12,156,300 円 ▷ p. 5
10 月 20 日～ 21 日	「全労済エールフェスタ」に参加、パネル展示、復興支援商品の販売等を実施 ▷ p. 4
11 月 16 日～ 19 日	「第５期宮城県南三陸町被災者支援ボランティア」に組合員３人、職員１人を派遣 ▷ p. 4
11 月 19 日～ 23 日	「復興ぞうきん」を立川センター、青梅センターで販売 ▷ p. 4
11 月 22 日	「福島支援カンパ贈呈式」を開催。組合員カンパとあわせて、城南信用金庫へ預けている「ボランティア預金」の利息分 100 万円も贈呈 ▷ p. 5
2013 年１月 29 日	都内避難者支援として、福島県、宮城県の被災者の自主組織「青空会」（新宿区）の企画にお茶菓子を提供、役職員６人が参加 ▷ p. 3
２月 11 日～ 15 日	「復興ぞうきん」を板橋センター、練馬センター、多摩センター、八王子センターで販売 ▷ p. 4
３月９日	シンポジウム「私たちは忘れない　3.11 東日本大震災　～その時　今　そして未来へ～」を開催、講演と被災地からの報告、交流会を実施 ▷ p. 6
３月 21 日	東京災害ボランティアネットワークの宮城県登米市での支援活動終了にともない、同団体へ 2011 年４月１日から無償貸与していた「こんせんくん軽ワゴン」が返還される ▷ p. 4
３月 23 日～ 25 日	「春休み！東京ではねをのばそう！！つながろう！福島パルシステム福島＆東京親子交流企画」を開催、パルシステム福島の組合員親子 16 組 42 人を東京へ招待、東京からも組合員ボランティア３家族５人が参加 ▷ p. 5

青空会交流会

「こんせんくん軽ワゴン」キー返却

1．東京都内における被災者支援活動を推進します。

■都内避難者へのアンケート

都内避難者でパルシステム東京を利用している 90 人に、支援内容検討のためのアンケートを実施。

・実施時期：2012 年４月

■パル・パラソルカフェ in 大山団地夏祭り

東京へ避難している方への支援を目的に、大山団地の夏祭りで、都内では初の「パル・パラソルカフェ」を開催。2011 年度に南三陸町や東松島市のボランティアにも参加した組合員ボランティア 22 人が参加。

・開 催 日：８月 18 日

・開催場所：大山団地（立川市）

・来 場 者：20 人（招待客を含む４家族と３グループ）

■青空会への支援

新宿区戸山台団地及び百人町の都営住宅に避難されている福島県、宮城県の被災者の自主組織「青空会」の芝居見学企画に対し、お茶・お菓子などを提供。また、芝居終了後に復興支援特別委員会の委員・事務局６人が懇談会に参加し、参加者と交流。

・開 催 日：2013 年１月 29 日（以降、2013 年度も継続中）

パル・パラソルカフェ in 大山団地夏祭り

編んだもんだら

南三陸町被災者支援ボランティア

全労済エールフェスタ出店

南三陸町被災者支援ボランティアまとめ報告会

2．被災地への支援活動を引き続き推進します。

■宮城県南三陸町被災者支援ボランティア

東京災害ボランティアネットワークによる宮城県登米市、南三陸町の仮設住宅での「ふれあい喫茶」の運営、傾聴ボランティアへ参加。

回数	日程	参加者数	備考
第１回	４月 27 日～30 日	役職員４人	－
第２回	６月８日～11 日	組合員３人 役職員２人	ホットドックパン、ウインナー等 300 食を提供
第３回	７月 20 日～23 日	組合員３人 役職員２人	お好み焼き、フランクフルト等 80 食を提供
第４回	８月 31 日～９月３日	組合員３人 役職員２人	ホットドックパン、ウインナー等 300 食を提供
第５回	11 月 16 日～19 日	組合員３人 役職員１人	ホットドックパン、ウインナー等 400 食を提供

■販売協力

東日本大震災被災者支援の一環として、被災者の手作り品を以下のセンターで供給。

商品	協力先	販売期間	販売センター	供給数
復興ぞうきん	一般社団法人 SAVE IWATE （岩手県）	５月 14 日～18 日	東村山センター	1,308 枚
		11 月 19 日～23 日	立川センター	412 枚
			青梅センター	420 枚
		2013 年 ２月 11 日～15 日	板橋センター	254 枚
			練馬センター	936 枚
			多摩センター	1,288 枚
			八王子センター	1,301 枚
編んだもんだら （アクリルたわし）	ＲＱ被災地女性 支援センター （宮城県）	７月９日～13 日	足立センター	433 個
		９月 17 日～21 日	江戸川センター	215 個
			江東センター	734 個

■組織カンパ

実施日	支援目的	支援先	カンパ額他
８月 24 日	被災地の児童・生徒のための『思い出作り＝心の支援活動』への義捐金	みやぎ生協	10 万円
9月6日～20日	安心して住める『福島』を取り戻すための活動	日本生活協同組合連合会	45 万円 署名1,660筆
10 月４日	被災者支援活動資金	東京災害ボランティアネットワーク	45 万円

■その他

東京災害ボランティアネットワークからの要請を受け、震災直後から約２年間、宮城県登米市での支援活動のため「こんせんくん軽ワゴン」を無償貸与。多くのボランティアの足となり活躍。

・貸出期間：2011 年４月１日～2013 年３月 21 日

・走行距離：１万 878km

■宮城県南三陸町被災者支援組合員ボランティアまとめ報告会

2011 年度に宮城県登米市、南三陸町での東京災害ボランティアネットワークの被災者支援活動に参加した組合員ボランティア（35 人）を対象に開催。

・開 催 日：５月 12 日

・参 加 者：23 人

（うち組合員 21 人）

■被災者支援組合員ボランティア合同交流会

2011 年度に宮城県東松島市での「パル・パラソルカフェ」と「南三陸町被災者支援組合員ボランティア」に参加した組合員ボランティアを対象に開催。

・開 催 日：６月９日

・参 加 者：23 人

（うち組合員 16 人）

■イベント協力

□全労済エールフェスタ

全労済の要請を受け、協力団体として連合会とともに参加。パルシステム東京が取り組んだ支援活動のパネル展示や、東北産の野菜販売、復興支援商品（布ぞうり、復興ぞうきん、エコたわしなど）、福島の手作り雑貨（福島県大熊町から会津への避難者が作成）を販売。

・開 催 日：10 月 20 日～21 日

□ならは雪まつり

会津市内の福島県楢葉町からの避難者仮設住宅での復興支援イベントに焼きそば、豚汁食材を提供。

・開 催 日：２月 16 日

福島訪問

福島の子どもたちとの交流企画・共生食品見学

福島支援カンパ贈呈式

3．福島支援活動を推進します。

■福島訪問

福島の子どもたちを放射能から守るための支援活動を推進するために、福島で活動している団体へ役職員４人が訪問、意見交換や情報収集を実施。

・訪問期間：５月 14 日～ 15 日
・訪 問 先：安全・安心・アクション in 郡山、福島県生協連合会、いわき放射能市民測定室

■福島の子どもたちとの交流企画

保養の場の提供と、東京の組合員との交流を目的に、2011 年度に続き実施。

□夏休み！サマーランドで思い切り遊ぼう！！つながろう！パルシステム福島＆東京 子ども交流企画
・開 催 日：７月 23 日～ 25 日
・訪 問 先：東京サマーランド、パルシステムのパン工場、ドライセットセンター、自由観光
・参加人数：パルシステム福島組合員親子 15 家族 43 人、パルシステム東京組合員ボランティア５家族 13 人

□春休み！東京ではねをのばそう！！つながろう！パルシステム福島＆東京 親子交流企画
・開 催 日：2013 年３月 23 日～ 25 日
・訪 問 先：東京スカイツリー、ＮＨＫスタジオパーク、共生食品（豆腐工場）、自由観光
・参加人数：パルシステム福島組合員親子 16 組 42 人、パルシステム東京組合員ボランティア３家族５人

福島の子どもたちとの交流企画・虹のかけはし（夏）

福島の子どもたちとの交流企画・私のたからばこ（春）

■福島支援カンパ 関連 p. 7

11 月 22 日に、カンパ贈呈先団体の代表者を招いて贈呈式を開催。組合員から寄せられたカンパ金とあわせて、城南信用金庫へ預けている「ボランティア預金」の利息分 100 万円も贈呈。

・組合員カンパ額：12,156,300 円
・参加組合員数：延べ 11,344 人

実施期間	贈呈先	カンパ贈呈額
10 月８日～ 26 日	未来の福島子ども基金	445 万 2,100 円（うち、40 万円はボランティア預金利息分から）
	子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト	435 万 2,100 円（うち、30 万円はボランティア預金利息分から）
	子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク	435 万 2,100 円（うち、30 万円はボランティア預金利息分から）

福島の子どもたちとの交流企画・サマーランド

情報交流会

学習・講演会

シンポジウム

4．復興支援及び災害対策に関するセミナー等を開催します。

■情報交流会「福島を考える　再生に　今　私たちに求められていること」

役職員対象に学習・意見交換会、復興支援及び災害対策に関するセミナーを開催。

・開 催 日：７月 26 日
・参加人数：20 人

■学習・講演会「瓦礫問題を考える！いのちを守る森の防潮堤とは？」「復興支援の現状と課題」

ＮＰＯ法人国際ふるさとの森づくり協会理事長、内閣府復興副大臣を講師として招き開催。

・開 催 日：９月３日
・参加人数：61 人（うち組合員 20 人）

■シンポジウム「私たちは忘れない　3.11 東日本大震災　～その時　今　そして未来へ～」 関連 p. 9

被災地から被災の体験や復興の現状共有や、首都直下地震に備えを確認することを目的にシンポジウムを開催。基調講演「東日本大震災　人間と社会の変貌」と被災地からの報告、交流会を実施。

・講師・ゲスト：東京災害ボランティアネットワーク代表 山崎美貴子氏（講師兼コーディネーター）
パルシステム福島理事長 和田佳代子氏
いわて生協理事 香木みき子氏
株式会社花兄園代表取締役 大須賀木氏
登米市若者総合体育館仮設住宅自治会長 阿部一郎氏
・開 催 日：2013 年３月９日
・参加人数：110 人（うち組合員 62 人）

防災の取り組み

■災害対策

実施月日	取り組み内容
８月 10 日	全事業所へ災害備蓄品として役職員の帰宅困難者セットを設置
11 月 21 日	パルシステム東京大規模災害対策規程制定
12 月１日	練馬・板橋センター合同企画「パルシステム防災フェスタ」「防災」をテーマに、起震車体験、消防訓練、防災グッズの説明等の企画を、地域、行政と連携して開催。来場者 207 人
2013 年１月	全役職員向けに「大規模災害対策の手引き」（ポケット版）配付
2013 年２月	震災時、事業継続や「東京都帰宅困難者対応条例（2013 年４月施行）」を受け、施設に待機する要員の食料３日間分を配置
2013 年３月	停電等に対応する最小限の電源確保のため、各事業所に発電機を配備

■出前学習会

地域における災害対策を考える企画

□震災対策出前学習会
・開 催 数：６回（５委員会、１外部団体）
・参加人数：66 人

□減災ＭＡＰシュミレーション
・開 催 数：３回（１委員会、１行政区連絡会、１生協連絡会）
・参加人数：72 人

関連 p. 5

福島支援カンパ 中間報告

福島県の子どもたちを放射能から守るための活動に取り組んでいる団体を支援するためのカンパに取り組みました。

【贈　　呈　　先】
- 未来の福島こども基金
- 子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト
- 子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

【カンパ実施期間】
2012 年 10 月 8 日（月）～ 26 日（金）

【カ ン パ 金 額】
1,215 万 6,300 円（参加組合員数：延べ 11,344 人）

【贈 呈 に つ い て】
2012 年 11 月に贈呈式を行い、パルシステ東京が城南信用金庫に預けている「ボランティア預金」の利息 100 万円もあわせて贈呈しました。

未来の福島こども基金

＜団体について＞（団体ＨＰより抜粋）

未来の福島こども基金は、チェルノブイリ子ども基金の姉妹団体です。20 年来行ってきたチェルノブイリ被災者支援の活動を、この福島原発事故に生かしていきたいと考えています。

＜贈呈額＞

445 万 2,100 円
（うち、40 万円はボランティア預金利息分から）

＜使　途＞

「福島の子ども保養プロジェクト in 久米島 ＮＰＯ法人 沖縄・球美の里」の支援
年間を通じて子どもを受け入れ可能な保養センターとして 2012 年 7 月に開所した「沖縄・球美の里」では、2013 年 5 月までに 11 回の保養が行なわれ、400 名以上が参加（1 回約 2 週間、50 名前後の母子を受け入れ）。放射能に汚染されていない地での長期保養による内部被ばくの低減、ストレスからの解放などにより、子どもたちの身体の抵抗力を高めることが目的。

沖縄・球美の里での保養プロジェクト

＜団体からのメッセージ＞

ご支援いただいたことに心から感謝しています。いま福島では甲状腺がんの子どもが見つかり、これから放射能の影響による病気が増えるのではないかと懸念されています。私たち未来の福島こども基金は事故後まもなく福島県内の市民測定所に放射能測定器を支援するところから活動をはじめました。食品測定器とホールボディカウンターを募金によって購入し、市民測定所に贈ることで内部被ばくの防止を目指しました。つづいて「沖縄・球美の里」の保養支援によって子どもたちが健康を維持快復できるよう目指しています。

この春からは福島での甲状腺検診プロジェクトの支援を開始しました。これは甲状腺の病気の早期発見と予防に役立てたいと考えたからです。私たちへの支援は子どもたちへの支援です。ご支援いただいた皆さまの想いを受け止め、いただいた寄付が子どもたちのために役立てられるよう大切に使わせていただきます。本当にありがとうございます。

子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト

＜団体について＞（団体ＨＰより抜粋）

「高線量地域の子どもたちを放射能から守ろう」と活動してきた「子ども全国ネット・福島支援ワーキングチーム」は、全国ネットがネットワーキング機能を活動の中心に据えることになったのにともない、発展解消し、新たに「子どもたちの未来と健康を守るプロジェクト」として活動することになりました。

福島県内各地で、お母さんたちのグループと連携し、健康相談会や保養相談会、講演会・座談会などを開催しています。また、季刊で『ママレボ』を発行しています。

＜贈呈額＞

435 万 2,100 円
（うち、30 万円はボランティア預金利息分から）

＜使　途＞

①「放射能の危険性について、基本的な知識や情報を伝える講座」の開講
交流の場を必要とし、事実を知りたい、という母親たちの声に応える小さな学習会活動を開催。

②福島県の子どもたちの外遊びの実態についてのアンケート調査
被災地での子どもの運動能力の低下や遊びの少なさが問題になっているため、2013 年年初に郡山・南相馬（在住者）などへ避難している約 100 名の母親にアンケートを実施。

③『ママレボ』出版活動
放射能の影響や放射線汚染の現実について、医師や研究者などに取材し、年 4 回発刊。

④相談活動
県外で取り組まれている避難・保養支援について、他団体と協力しながら情報発信。

⑤３a!（安全・安心・アクションin郡山）への支援
座談会やお野菜マルシェ等の活動拠点確保と、自主被ばく検査を実施。

郡山での座談会

＜団体からのメッセージ＞

震災から２年を過ぎ、被災地では矛盾が固定化させられようとするなかで、ことに子育てをしている方たちの不安は放置されつつあります。人から人へ知識や情報を伝える場、交流することによって支えあえる場は、そうした状況の中で持久力を問われてきていると考えています。

私たちの取り組みは地道な活動ですが、ご支援をいただけたことで、持続的な場の設定、実践の中から見えてきた必要性を活動として実現することができる態勢をつくることが可能となっています。今後とも、放射線被曝から逃れるために必要とされる活動を、できるだけ有効な形で展開していきたいと考えています。

みなさまの温かいご支援に、心より感謝しております。

子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

＜団体について＞（団体ＨＰより抜粋）

私たちの願いはただ一つです。“福島の子どもたちを放射能から守りたい”、この想いを絆に私たちはつながり合います。

私たちは、子どもを守るための様々な活動を、父母として、家族として、そして一人の市民として、行なっていきます。

私たちは、ひとりひとりの立場や意見の違いを認め合います。そして、すべてのメンバーの自由な活動を可能な限り認め合います。

このような活動を、私たちの共通の想いとして行なうことができるようにするために、私たちはここに「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」を設立します。

＜贈呈額＞

435 万 2,100 円（うち、30 万円はボランティア預金利息分から）

高校生保養プログラム報告会

＜団体からのメッセージ＞

皆様からの温かい御支援のおかけで福島の子どもたちのために私たちは活動できております。震災から２年以上が経過した今、福島では声を上げる人たちが多くはありません。報道にも取り上げられる機会が少なくなり、「もう福島は大丈夫なんでしょ」と間違った情報が飛び交う中で、いかに声を上げるのかが大切な事になっています。

皆様からの御支援やお言葉が本当に私たちの活動の源となっております。

皆様へ心より感謝申し上げます。今後とも子どもたちを放射能から守るため、御協力をお願い申し上げます。

＜使　途＞

①春休み高校生保養プログラム支援プロジェクト
1 組上限 20 万円の保養プログラムを高校生自らに計画してもらい、実施を支援。

②「佐渡保養センターへっついの家」での保養活動支援
2012 年末の冬キャンプ、春キャンプを実施、多くの親子が参加。

③「米沢保養所あおぞら館」での保養活動支援
福島からは、さほど遠くなく比較的放射線量も低い米沢で季節ごとの自然を満喫しながらご家族やグループが利用。

東日本大震災から２年…私たちは忘れない！

シンポジウム「私たちは忘れない！ 3.11 東日本大震災 その時～今～そして未来へ」

震災から２年を迎えるにあたり、組合員とともに被災地・被災者の現状を共有化し、私たちに何ができるのかを考えるために、被災した生産者、生協、仮設住宅の自治会長を招いて開催しました。

【開 催 日 時】
2013 年３月９日（土） 10：00 ～ 14：00
【参　加　者】
110 人（うち組合員 62 人）
【プログラム】
１．基調講演「東日本大震災 人間と社会の変貌」
山　崎　美貴子氏（東京ボランティア･市民活動センター所長､東京災害ボランティアネットワーク代表､前神奈川県立保健福祉大学学長）
２．被災地からの報告～意見交換
・和　田　佳代子氏（パルシステム福島理事長）
・香　木　みき子氏（いわて生協：理事 ）
・大須賀　　木　氏（パルシステム鶏卵産地（株）花兄園代表取締役 ）
・阿　部　一　郎氏（宮城県登米市 若者総合体育館仮設住宅自治会長）
３．昼食交流会
４．「かけあしの会＊」による復興支援商品の販売
＊いわて生協の店舗「マリンコープ DORA」を活動拠点とした復興プロジェクト

基調講演では、講師の山崎さんからは、被災地では２年が経った今も希望が見いだせない状況にあり、被災者の心身両面に寄り添った息の長い支援の必要性が語られた。そして「生協は、人と人、地域とつながりの仕組みを持っていて、その実績もある。また被災生協は当事者性もあわせもち、被災者と辛さを分かち合う強さもある。様々な支援活動を通して学んだことを活かし、支え合いのつなぎ手になってほしい」と、生協のもつコミュニティやネットワークへの期待が寄せられました。

被災地からの報告では、震災直後の状況から、被災地への関心が低下してきていることへの懸念、避難者同士のコミュニティづくりを阻む個人情報保護法の壁、進まない東京電力の原発事故補償問題など、いまだ復興にはほど遠い被災地、被災者の“今”について報告がありました。また、今回のシンポジウムには、ゲストとして新宿区百人町に避難してきている方々でつくる「青空会」（関連ｐ．３）の方々も招待。代表の山田会長から、先が見えない避難生活への不安や、直面しているコミュニティづくりの課題について報告をいただきました。

昼食時の交流も含めた４時間半。持続的な支援の必要性や、できることから積み重ねていくことの大切さを参加者全員で共有することができた時間となりました。

福島からのメッセージ

震災から２年が経過し、被災地福島にもようやく復興の兆しがみられるようになりました。しかし、原発事故の影響で復旧復興が思うようにいかない状況も続いています。

放射能除染も根本的な解決には至らず、風評被害も払拭できない。時間の経過により問題が複雑化し、それが更に復興を遅らせるという悪循環に陥っています。報道が減ることによる被災の風化も心配されます。時折取り上げられる話題も、復興への明るい話題か、深刻な状況かの両極端になっています。どちらも真実ではありますが、一方のみでは本当の姿は伝わりません。今、被災地の声をいかに伝えるかが大きな課題になっています。

パルシステム福島では、外へ声を届けると共に、現地の本当の姿を知っていただくスタディツアーの紹介を積極的に行っています。福島を訪れていただき、震災と原発事故がもたらしたものを知ることで、これからの進むべき道を福島の地で考えていただくことを願っています。

生活協同組合パルシステム福島　和田 佳代子

岩手からのメッセージ

震災から３年目の今、被災地では格差と温度差を感じます。仮設住宅をでて、自宅再建し新たな一歩を踏み出す方がいる一方、最後に自分だけ仮設に取り残されるのではないか、復興公営住宅に入居してからの家賃、新たなコミュニティーづくり、今後の生活に不安だらけの方たちもたくさんいます。

いつまでも甘えるなとの声を被災しなかった同じ地域住民から言われることで大変傷つき苦しんでいる被災にあった方たちもたくさんいます。その心を癒してくれていたボランティア団体も助成金が打ち切られるなど、年々被災地訪問も減少しています。

この３年目だから生かされた命を自ら絶つことのないように心寄り添う、心通わせること事が大切になってくると思います。　また、人口流出には地域活性化が課題です。被災地商品も購入ご協力お願い致します。復興には、まだまだ長い道のりです。

ぜひ一度、自分の目で被災地をみて確かめて何かを感じ取って頂ければ幸いです。

いわて生協　香木 みき子 ／ かけあしの会

産直産地からのメッセージ

震災以来物心両面でのご支援わり改めてお礼を申上げます。

私どもでは津浪で１農場、倒壊により１農場、原発事故により主力の３農場と１施設を失い採卵鶏 25 万羽が死亡しました。事故後の茫然自失状態から現在は取引先生協の組合員様や私どもの卵、とり肉しか食べられない化学物質過敏症の方達のためにも１日も早く再建しなければならないと努力しています。

事故後１年半ほどは東京電力の補償が進みませんでしたが、東電の福島復興本社と直接交渉できるようになり補償金も入るようになりました。再建が可能な補償金が得られるかは分かりませんが自助努力も含めて再建するつもりでいます。

震災前と同様完全無薬（ワクチンのみ使用）生産、卵の洗浄殺菌は強アルカリ、強酸性水（安全で環境負荷が少ない）を採用、洗卵選別機は毎日使用後洗浄、飼料の主原料は PHF、NonGMO で高いレベルの安全で美味しく、かつ合理化により安価な卵を提供して皆様のご支援にお応えしたいと考えています。

（株）花兄園　大須賀 木（こだち）

パルシステム東京 東日本大震災復興支援活動報告書 2012

Pray for Japan

発　　行 ： 生活協同組合パルシステム東京
発 行 日 ： 2013 年 7 月 29 日
発行部数 ： 1,500 部
住　　所 ： 〒169-8526　新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7 F
E - m a i l ： palsystem-tokyo@pal.or.jp
印　　刷 ： スピックバンスター株式会社